

令和6年度富山県公共事業再評価調書

整理番号	事業名			路線名・河川名等			事業箇所		
10	道路橋りょう改築費			イッパンコドウ ゴウ シンショウガワバン 一般国道415号 新庄川橋			イミズシ ショウセイマチ ショウガワホンマチ 射水市庄西町～庄川本町		
着手	完了	経過年数	残事業年数	再評価区分	総事業費 (百万円)	前年度まで 事業費 (百万円)	R6 事業費 (百万円)	残事業費 (百万円)	進捗率
R1	精査中 (R20)	6	精査中	再	精査中 (14,000)	427	60	精査中	精査中

全体計画

道路改良(橋梁架替)

延長 L=1,100m(道路改良:L=700m、橋梁架替:L=400m)

幅員 道路改良区間:W=14.5m、橋梁架替区間:W=18.06m

※設計中であり、変更となる可能性がある。

事業費の単位は百万円、下段()書きは事業着手時又は前回再評価時の数値である

事業概要の説明

当路線は、石川県羽咋市を起点とし、高岡市、射水市など県西部の湾岸部の主要都市を経て、富山市を終点とする延長約68kmの幹線道路で、第2次緊急輸送道路にも指定されている重要な道路である。

新庄川橋は、昭和13年に建設された旧橋(上流側)と昭和48年に建設された新橋(下流側)の2橋で構成されており、特に建設から85年が経過した旧橋は老朽化が著しい。

また、庄川水系河川整備計画には、2m程度の堤防の嵩上げと、これに伴う新庄川橋(旧橋)および隣接する万葉線橋梁の架け替え等が位置付けられている。

新庄川橋(旧橋、新橋)と万葉線橋梁を一体的に架け替えることにより、災害に強く安全な道路交通を確保するとともに、治水安全度の向上を図る。

評価の視点と自己評価内容

1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
射水市人口 ※射水市HP	人	92,884 (H31.4)	90,558 (R6.4)	2.5%減少 (△2,326)
交通量(一般国道415号 新庄川橋) ※道路交通センサス	台/日	12,269 (H27)	11,066 (R3)	9.8%減少 (△1,203)
万葉線輸送人員	人/年	1,135,583 (H31)	1,070,665 (R5)	5.7%減少 (△64,918)

自己評価内容

評価結果

・事業着手時に比べ、射水市の人口は減少している。
・当該路線の交通量は減少しているが、1万台/日を超える交通量があり、災害に強く安全な道路交通を確保するため早期整備が必要である。
・万葉線の輸送人員は減少しているが、年間100万人を超える利用があり、公共交通の維持のため一体的な整備が必要である。

事業継続が妥当

2. 事業の投資効果

数値化が困難な事業効果

・橋梁の劣化の進行や、大規模地震により橋が損傷し、通行止めとなった場合の社会的損失を防ぐことができる。
・洪水を安全に流下させる上でのボトルネック箇所が解消される。
・道路の幅員が広がることにより、自転車利用者の安全性が向上する。

自己評価内容

評価結果

・老朽化が進行する橋梁の架け替えにより、耐震性も確保され、災害に強い道路ネットワークが形成されることから、事業投資効果は大きい。
・橋梁の架け替えにより、洪水を安全に流下させる上でのボトルネック箇所が解消されることから、事業の投資効果は大きい。

事業継続が妥当

3. 事業の進捗状況、見込								
全体計画			令和6年度まで整備済		未整備内容		令和6年度までの進捗率 (%)	
主な工種(単位)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	事業量ベース	事業費ベース
橋梁工(m)	400	精査中	0	0	400	精査中	0.0%	精査中
道路改良工(m)	700	精査中	0	0	700	精査中	0.0%	精査中
旧橋撤去	1式	精査中	0	0	1式	精査中	0.0%	精査中
用地補償	1式	精査中	0	0	1式	精査中	0.0%	精査中
調査設計	—	精査中	—	487	—	精査中	精査中	精査中
合計	1,100	精査中	0	487	1,100	精査中	精査中	精査中
残事業内容および今後の整備見込 ・事業着手以来、調査や設計を進めてきたが、橋脚基礎工や仮設工等において、工事の規模が大きくなる見込みが生じた。 ・このままでは事業を進めることが困難であるため、これまでの設計について、施工の合理化やコスト縮減を図り、事業計画の見直しを実施している。								
自己評価内容								評価結果
・設計や事業計画の見直しを進めること、また、橋の老朽化の対応も検討するため、調査、設計の継続が必要である。								調査の継続、設計の見直しが必要
4. 今後のコスト縮減や代替案立案等の可能性(工法、計画の見直し等含む)								
自己評価内容								評価結果
・橋脚基礎工の構造や仮設工の計画の見直しを軸に、検討を進めている。 ・一体橋の計画にあたっては、下記によりランニングコストの低減に努める予定。 高欄、検査路は、メンテナンスフリーで耐久性の高い「アルミ合金製」を採用 照明は、高輝度で長寿命の「LED照明」を採用								調査の継続、設計の見直しが必要

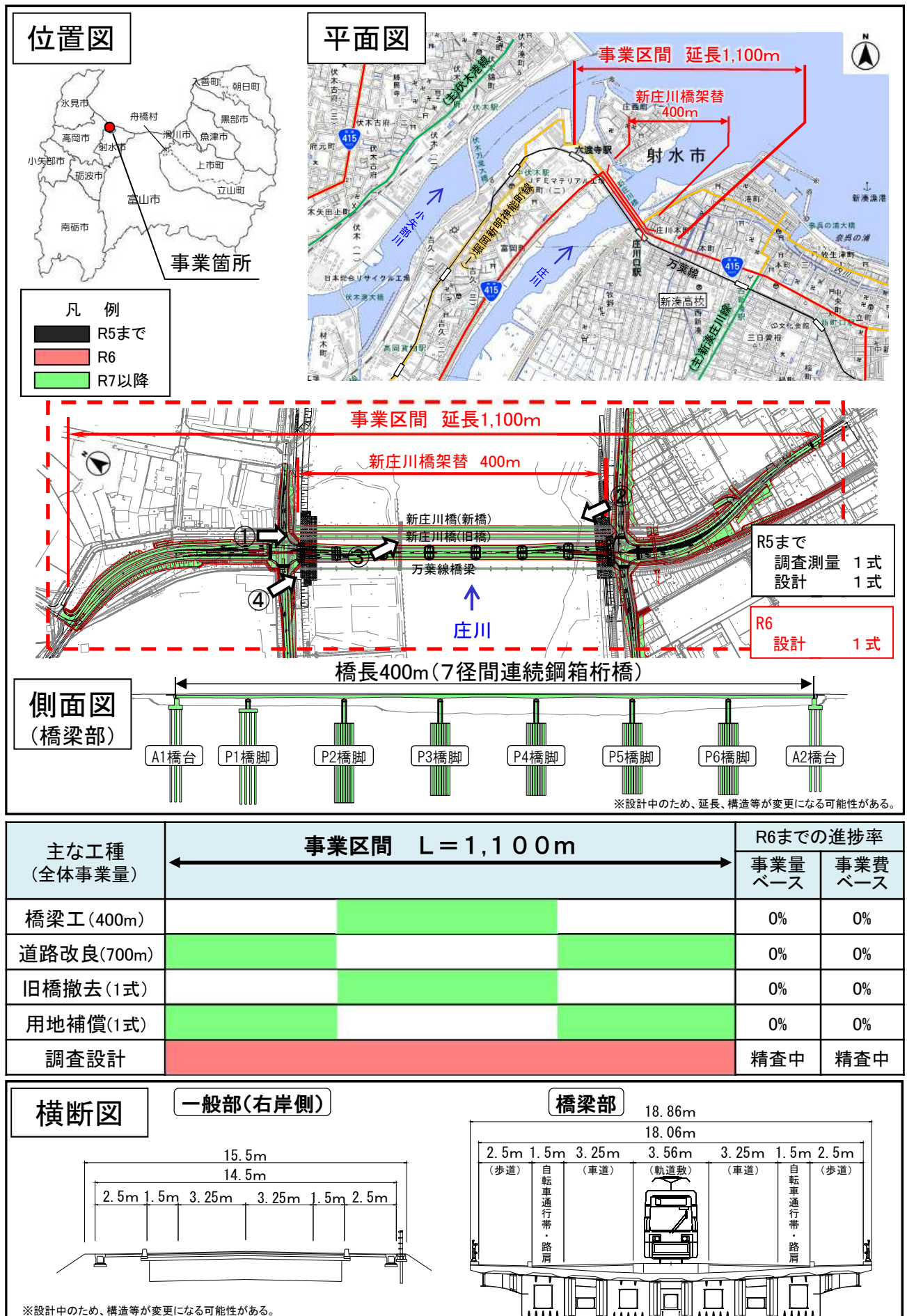
その他の視点

5. 関係機関との調整状況、他事業との関連など
・射水市から、道路橋と万葉線橋梁の一体的な架け替え事業の整備促進について要望を受けている。
6. 事業の緊急性(適時性)および事業を見直した場合に想定される影響
・新庄川橋(旧橋)は特に老朽化が著しく、災害に強く安全な道路交通の確保のため、早急な架け替えが必要である。 ・新庄川橋(旧橋)および隣接する万葉線橋梁が洪水を安全に流下させる上でのボトルネック箇所となっており、早急な架け替えが必要である。

自己評価内容の総括

対応方針(案)	対応方針(案)の説明
継続して審議	「1. 事業をめぐる社会経済情勢等の変化」や「2. 事業の投資効果」については、事業継続が妥当と認められるが、工事の規模が大きくなる見込みが生じたことから、設計や事業計画の見直しを進めるため引き続き、調査、設計を継続し、これらの見直し結果が出た段階で、改めて再評価の審議をいただきたい。

10 道路橋りょう改築費 一般国道415号 新庄川橋(射水市庄西町～庄川本町)



整備前の状況



老朽化状況



令和6年度富山県公共事業再評価調査

整理番号	事業名			路線名・河川名等			事業箇所		
12	河川総合交付金			ジツ ツウ ガワ スイ ケイ ツメタガワ 神通川水系冷川			トヤマシ オオマチホカ 富山市大町外		
着手	完了	経過年数	残事業年数	再評価区分	総事業費 (百万円)	前年度まで 事業費 (百万円)	R6 事業費 (百万円)	残事業費 (百万円)	進捗率
R2	R13	5	7	再	990 (500)	204	63	723	27.0%
全体計画									
延長300m 護岸工600m									

事業費の単位は百万円、下段()書きは事業着手時又は前回再評価時の数値である

事業概要の説明

冷川は、富山市街地の南部を流れ、神通川支川松川に合流する、延長3.1kmの一級河川である。
 川幅が狭く、流下能力が不足しているため、度々浸水被害が発生している。
 このため、沿川地域を洪水被害から守るため、護岸整備や橋梁の架け替えにより、河積を拡大し、浸水被害の解消を図るものである。

評価の視点と自己評価内容

1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
時間雨量50mmを越える降雨実績(県内、10年間)	回	19 (H22～R1)	27 (H26～R5)	増加
浸水被害履歴 (浸水戸数)	—	床上浸水3戸(H22.8.31) 床下浸水5戸(")	床上浸水3戸(R4.8.13) 床下浸水7戸(") 床下浸水1戸(R5.7.12)	新たな浸水被害あり
沿川人口(堀川南地区)	人	15,248 (R2)	15,132 (R6)	0.76%減少 (△116)

自己評価内容

・沿川地区の人口は減少しているが、県内における時間50mmを越えるゲリラ豪雨の発生回数は事業着手時に比べ、約1.4倍と増加している。
 ・冷川流域においては、事業着手後、令和4年8月豪雨で床上浸水3戸、床下浸水7戸、また令和5年7月豪雨で床下浸水1戸の被害が発生している。

評価結果

事業継続が妥当

2. 事業の投資効果

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
費用便益(B/C)	—	1.3 (R1算出)	1.2 (R6算出)	

数値化が困難な事業効果

・人的被害の軽減効果。
 ・交通途絶やライフライン切断による波及被害の軽減効果。
 ・事業により地域の安全性が高まり土地生産性の向上や宅地化など土地利用が高度化する効果。
 ・地域の安全性を高めることによって、地域の資産価値を高める効果。

自己評価内容

・治水経済調査マニュアル(案)の改正により便益が減少し、費用便益比は事業着手時より減少しているが、1.0以上であり、事業投資効果は高い。

評価結果

事業継続が妥当

3. 事業の進捗状況、見込								
全体計画			令和6年度まで整備済		未整備内容		令和6年度までの進捗率 (%)	
主な工種(単位)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	事業量ベース	事業費ベース
掘削工 (m ³)	2,124	14	248	2	1,876	12	11.7%	14.3%
護岸工 (m)	300	632	30	60	270	572	10.0%	9.5%
附帯工事	1	20	－	10	－	10	－	50.0%
用地・補償	1	269	－	150	－	119	－	55.8%
調査・設計	1	55	－	45	－	10	－	81.8%
合計	－	990	－	267	－	723	－	27.0%

残事業内容および今後の整備見込

- ・残事業の工種は、護岸工 270m、掘削工 1,876m³、附帯工事(橋梁架替) 1橋 等。
- ・事業着手後、新型コロナウイルス感染症が流行し、地元調整等に時間を要したが、現在は、用地補償も順調に進んでいることから、今後の工事の進捗は早まるものと考えている。
- ・今後は、上流に向かって引き続き施工する予定としている。
- ・事業費について、労務資材単価の上昇、地下水対策等の理由により増額。

自己評価内容

- ・地元の要望が強く、用地補償も順調に進んでいる。

評価結果

事業継続が妥当

4. 今後のコスト縮減や代替案立案等の可能性(工法、計画の見直し等含む)

自己評価内容

- ・工法の検討比較を行い、矢板護岸工とすることで、影響範囲が狭くなり、用地補償にかかる費用を小さくしている。
(約319百万円のコスト縮減)

評価結果

事業継続が妥当

その他の視点

5. 関係機関との調整状況、他事業との関連など

- ・沿川地元からの要望が強く、富山市からも早期完成の要望を受けている。

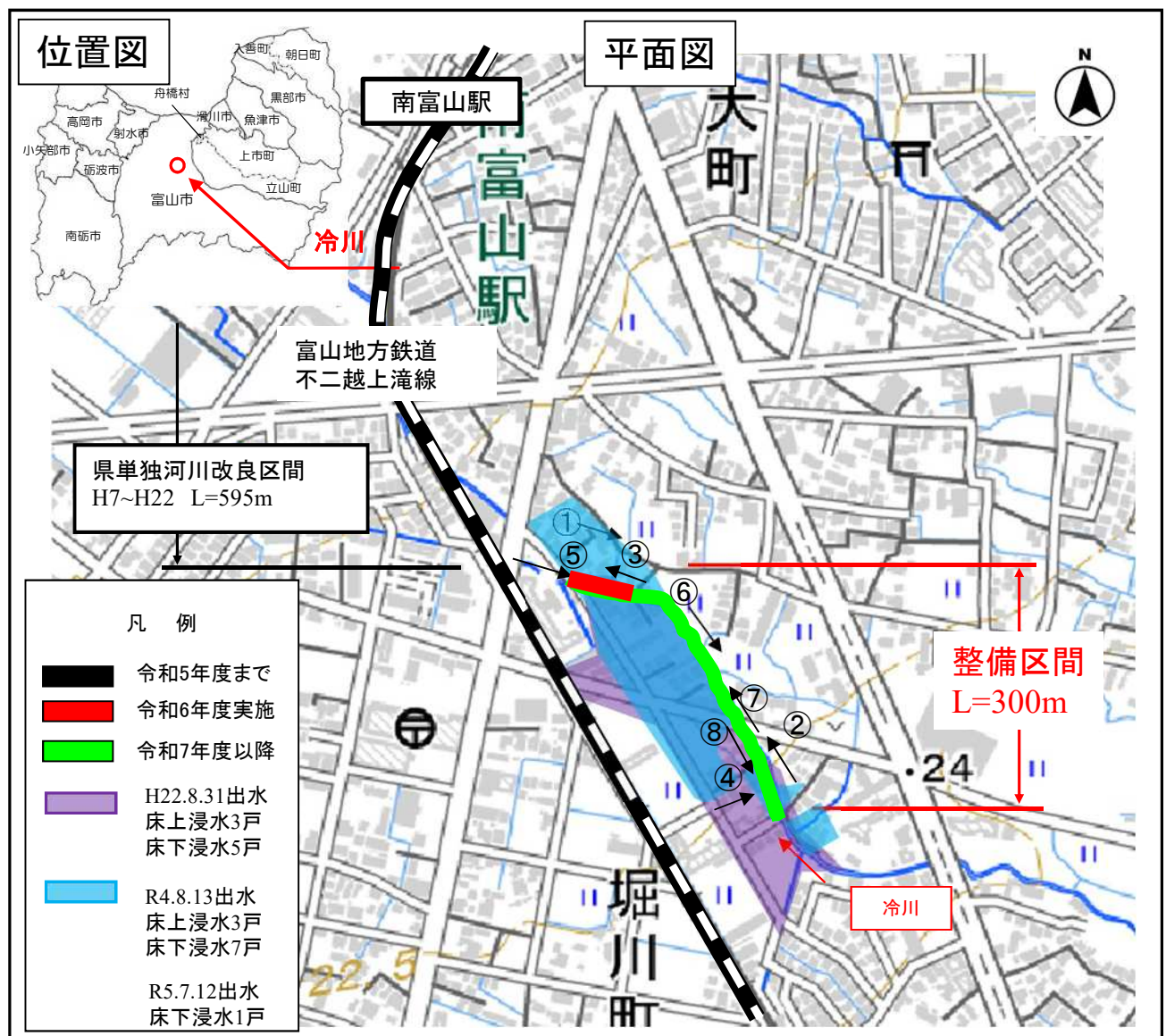
6. 事業の緊急性(適時性)および事業を見直した場合に想定される影響

- ・冷川流域において、平成22年8月の豪雨では、床上浸水3戸、床下浸水5戸の浸水被害が発生したほか、令和4年8月、令和5年7月の豪雨でも浸水被害が発生し、周辺住民の生活に大きな支障をもたらしている。
- ・ゲリラ豪雨も増加傾向にあり、治水安全度が向上しない場合、浸水被害が今後も発生すると予見される。
- ・早急に治水安全度の向上を図り、沿川住民の不安を解消するため、できるだけ早期の完成を図る必要がある。

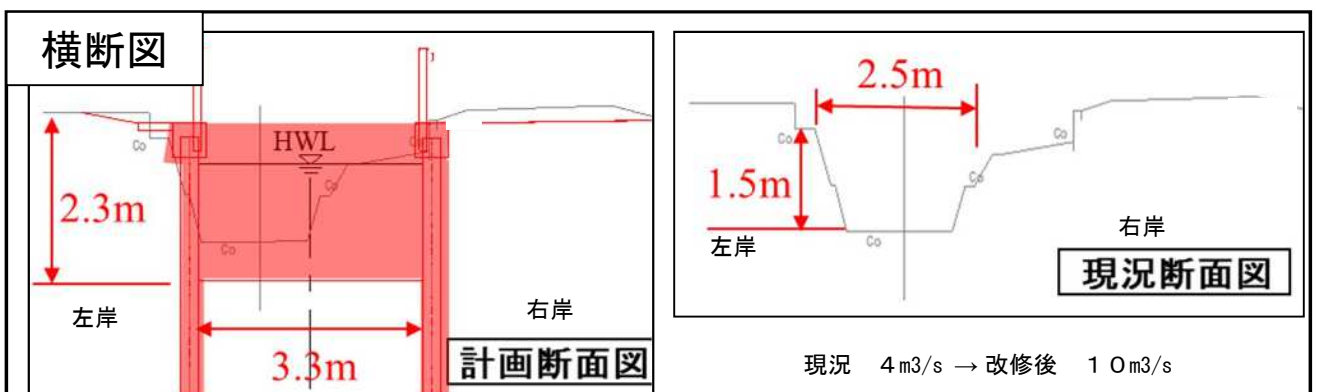
自己評価内容の総括

対応方針(案)	対応方針(案)の説明
継続	・令和4年、5年と2年連続で住宅の浸水被害が発生しており、できるだけ早期の完成を図る必要がある。 ・用地交渉は順調に進んでおり、今年度工事に着手する予定であり、今後の事業は順調に進捗すると考えられる。 ・地元の要望も強く、早急に治水安全度の向上を図るため、事業の継続が必要。

12 河川総合交付金事業 冷川(富山市大町外)



主な工種 (全体事業量)	事業区間 L = 300m	R6までの進捗率	
		事業量 ベース	事業費 ベース
用地補償 (1,414㎡)		74.5%	55.8%
護岸工 (600m)		10.0%	9.5%



浸水時の状況



現況写真(整備前の状況)



令和6年度富山県公共事業再評価調書

整理番号	事業名			路線名・河川名等			事業箇所		
15	河川改修費			シライワガワスイケイシライワガワ 白岩川水系白岩川			トヤマシ ミズハシハタケラ ホカ 富山市水橋畠等 外		
着手	完了	経過年数	残事業年数	再評価区分	総事業費 (百万円)	前年度まで 事業費 (百万円)	R6 事業費 (百万円)	残事業費 (百万円)	進捗率
R2	R9 (R7)	5	3	再	1,500 (640)	474	21	1,005	33.0%
全体計画									
橋梁架替工、護岸工									

事業費の単位は百万円、下段()書きは事業着手時又は前回再評価時の数値である

事業概要の説明

富山市内及び立山町の住宅密集地を流れる白岩川では、川幅が狭いことから、洪水による被害がたびたび発生しており、昭和44年には浸水面積1,025ha、浸水戸数3,880戸、平成10年8月7日には支川の川原田川の沿川で浸水面積10ha、床下浸水戸数130戸の浸水被害が発生している。

このため、昭和45年度から事業に着手し、現在までに鉄道橋(あいの風とやま鉄道)より上流約4,800mの改修及び河口部から水橋大橋下流、小出川との合流点の護岸整備を完了した。

本事業は上記の整備に引き続き、流下能力が不足し、ボトルネックとなっている水橋大橋の架替とともに、河道の拡幅に取り組んでいるものである。

評価の視点と自己評価内容

1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

指標名	単位	前回評価時	今回評価時	備考
時間雨量50mmを越える降雨実績(県内、10年間)	回	19 (H22～R1)	27 (H26～R5)	増加
浸水被害実績	—	浸水 10ha 床下浸水130戸 (H10.8.7)	浸水 10ha 床下浸水130戸 (H10.8.7)	本事業区間付近の実績
沿線人口 (水橋畠等外)	人	1,373人 (H31.3)	1,242人 (R6.4)	9.5%減 (△131人)

自己評価内容

・沿川の人口は前回評価時よりもやや減少しているが、沿川には人家が集積しており、学校等の公共施設や工業施設などがあることから、人命及び財産を守るという観点から事業の重要性は高い。

・県内における時間50mmを超えるゲリラ豪雨の直近10年間の発生回数は事業着手時と比べ、1.4倍と増加している。

・平成10年8月7日に支川の川原田川の沿川で浸水面積10ha、床下浸水戸数130戸の浸水被害が発生している。

評価結果

事業継続が妥当

2. 事業の投資効果

指標名	単位	前回評価時	今回評価時	備考
費用便益比(B/C)	—	15.9 (R元年算出)	15.6 (R6算出)	減少

数値化が困難な事業効果

・人的被害の軽減効果。

・交通途絶やライフライン切断による波及被害の軽減効果。

・事業により地域の安全性が高まり土地生産性の向上や宅地化など土地利用が高度化する効果。

・地域の安全性を高めることによって、地域の資産価値を高める効果。

自己評価内容

・全体事業区間の費用便益比は、前回評価時から減少しているが、1.0を上回り、現状においても事業の投資効果がある。また、人的被害の軽減や交通途絶やライフライン切断による波及被害の軽減、地域の安全性を高めることによって、地域の資産価値を高める効果など数値化が困難なこれらの効果も期待できる。

評価結果

事業継続が妥当

3. 事業の進捗状況、見込

全体計画			令和6年度まで整備済		未整備内容		令和6年度までの進捗率 (%)	
主な工種(単位)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	事業量ベース	事業費ベース
護岸工(m)	300	370	50	47	250	323	16.7%	12.7%
道路橋(式)	1	965	-	350	-	615	63.4%	36.3%
用地・補償(式)	1	150	-	88	-	62	75.0%	58.7%
調査・設計(式)	1	15	-	10	-	5	-	66.7%
合計		1,500		495		1,005		33.0%

残事業内容および今後の整備見込

- ・残事業の工種は、護岸工 250m、道路橋1式、補償費1式、調査設計1式 等。
- ・令和5年5月に工期がR6までの下部工(P1橋脚)を発注し契約済み、令和5年10月に工期がR8までの上部工を発注し契約済み。
- ・令和6年6月に、R7までの工期で下部工(P2橋脚)を発注し契約済み。
- ・事業費について、労務資材単価の上昇、湧水対策等の理由により増額し、これに伴い事業期間を延長。

自己評価内容

- ・令和6年度までの箇所付け額では進捗率33.0%になるが、橋梁上部工工事はR8年度までの工期で契約済み、橋梁下部工(P2)工事はR7年度までの工期で契約済みであり、それら事業費を含めると、進捗率は60.0%である。
- ・地元の要望が強く、用地補償も順調に進んでおり、流下能力が不足するボトルネック箇所を解消するために事業を継続し、事業効果を発現させるべきである。

評価結果

事業継続が妥当

4. 今後のコスト縮減や代替案立案等の可能性(工法、計画の見直し等含む)

自己評価内容

現場発生土を埋戻し材として再利用し、コスト縮減に努めている。

評価結果

事業継続が妥当

その他の視点

5. 関係機関との調整状況、他事業との関連など

富山市や白岩川水系改修促進期成同盟会から河川改修促進に関する要望を受けている。

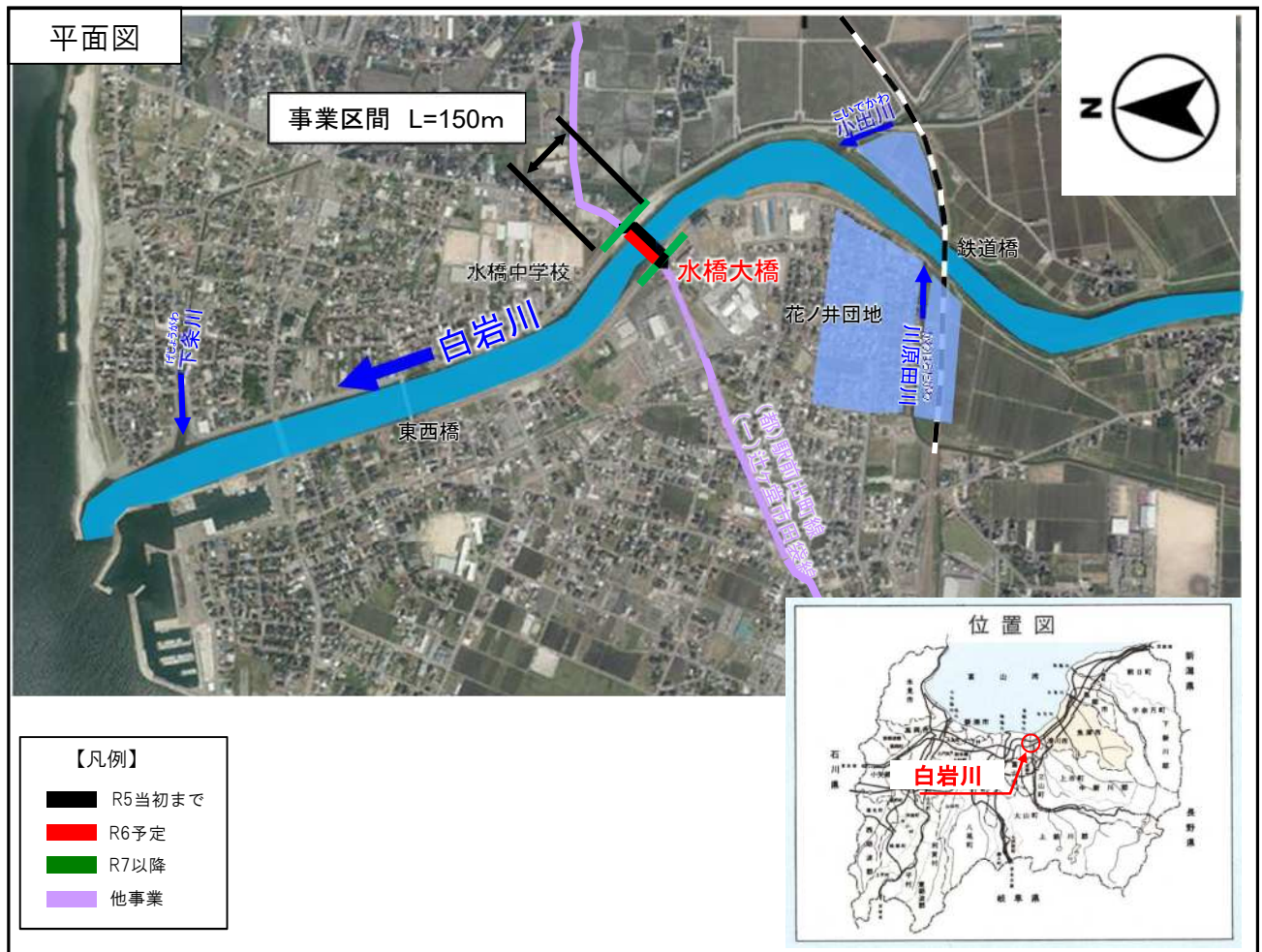
6. 事業の緊急性(適時性)および事業を見直した場合に想定される影響

- ・ゲリラ豪雨も増加傾向にあり、治水安全度が向上しない場合、浸水被害が今後も発生すると予見される。
- ・早急に治水安全度の向上を図り、沿川住民の不安を解消するため、できるだけ早期の完成を図る必要がある。

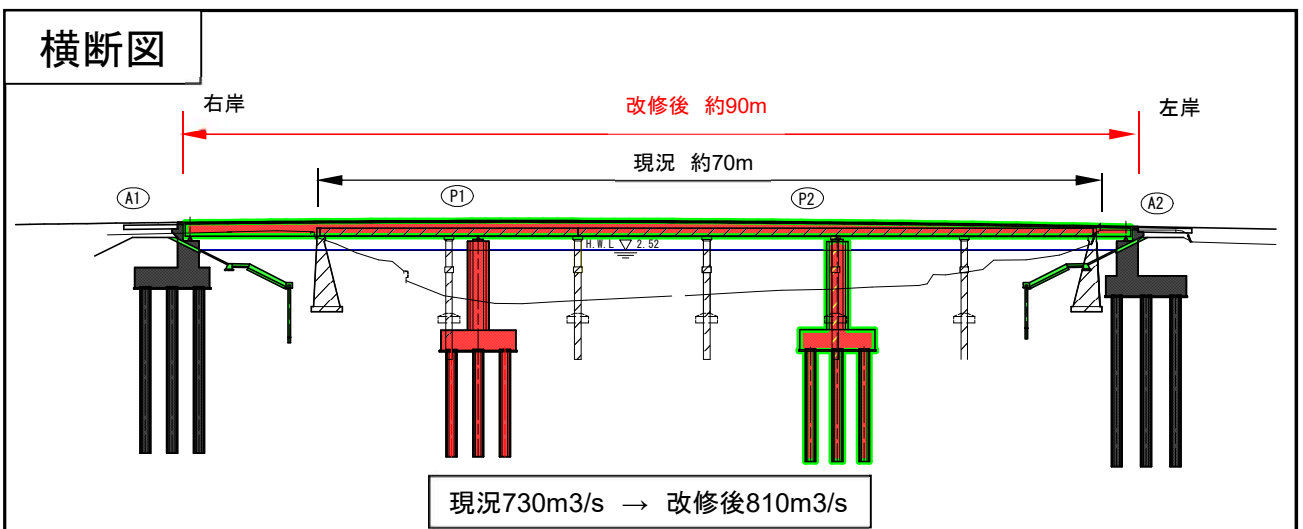
自己評価内容の総括

対応方針(案)	対応方針(案)の説明
継続	・B/Cは減少しているものの、1.0以上あり事業投資効果は高い。また、人命被害の軽減等の数値では表すことができない事業効果が期待できる。 ・地元の要望も強く、早急に治水安全度の向上を図るため、事業の継続が必要。

15 河川改修費 白岩川水系白岩川(富山市水橋畠等外)



主な工種 (全体事業量)	事業区間 L = 150 m	R6までの進捗率	
		事業量 ベース	事業費 ベース
護岸工 (300m)		16.7%	12.7%
道路橋		63.4%	36.3%
用地補償		75.0%	58.7%



整備前の状況



水橋大橋右岸側より



水橋大橋左岸側より



水橋大橋左岸側より

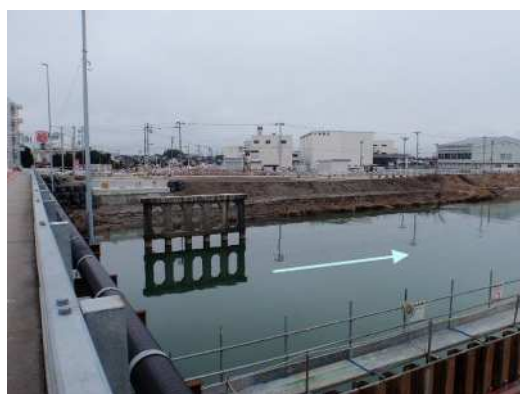


水橋大橋右岸側より

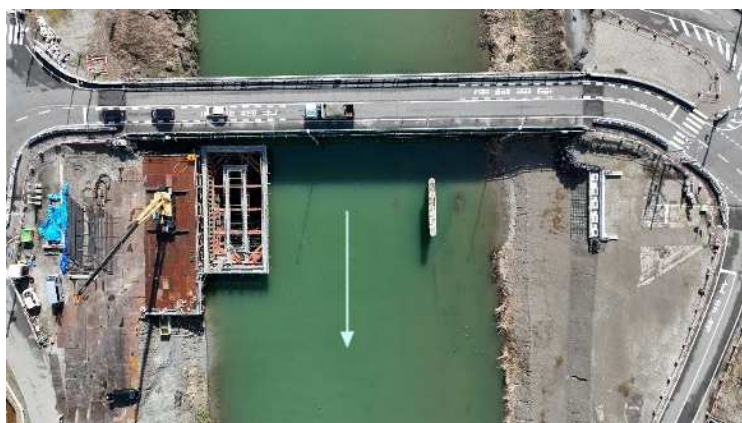
現況写真(整備中の状況)



工事中左岸側より



工事中右岸側より



工事中上空より

令和6年度富山県公共事業再評価調査

整理番号	事業名			路線名・河川名等			事業箇所		
17	砂防総合交付金事業(砂防)			オヤベ カワスイケイニシエビサカ 小矢部川水系西海老坂(1)			タカオカシ ニシエビサカ 高岡市西海老坂		
着手	完了	経過年数	残事業年数	再評価区分	総事業費(百万円)	前年度まで事業費(百万円)	R6事業費(百万円)	残事業費(百万円)	進捗率
R2	R10	5	4	再	220 (200)	43	40	137	37.7%
全体計画									
砂防堰堤工 1基(高さ 4.5m 長さ 40.0m)									

事業費の単位は百万円、下段()書きは事業着手時又は前回再評価時の数値である

事業概要の説明

現状の危険性:当溪流は、平均溪床勾配が1/7.8と急流であり、流域内には流木や不安定な土砂が多量に堆積している。豪雨により土石流が発生すると、下流の人家5戸、市道のほか、指定避難所となっている県立高岡高等支援学校に甚大な被害を及ぼす恐れがある。よって、砂防堰堤を整備し、土砂災害から住民の生命・財産を守る必要がある。

評価の視点と自己評価内容

1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
保全対象人家戸数	戸	5	5	変化なし
〃 道路(市道)	m	143	143	変化なし
〃 学校	校	1	1	変化なし
高岡市人口	人	169,530 (R2.3)	163,248 (R6.3)	3.7%減少 (△6,282)

自己評価内容

評価結果

本事業箇所の保全対象である人家戸数、道路(市道)、学校に変化は無く、砂防堰堤建設の重要性は高い。

事業継続が妥当

2. 事業の投資効果

指標名	単位	事業着手時	今回評価時	備考
費用便益比(B/C)		13.6 (R2算出)	11.1 (R6算出)	

数値化が困難な事業効果

・本事業では、災害時の医療活動・消防活動・人員物資輸送の遅延など、「交通途絶による波及被害抑止効果」が見込まれる。
 ・また土石流に対する安全度の向上に伴う、「地域住民の被災可能性に対する不安の軽減効果」が見込まれる。

自己評価内容

評価結果

・詳細検討を行った結果、当初よりも便益の減少があるものの、費用便益比は11.1となっており、十分な投資効果が見込まれる。
 ・本事業を行うことにより、交通途絶被害の抑止や土砂災害に対する下流の住民の不安軽減が図られる。

事業継続が妥当

3. 事業の進捗状況、見込								
全体計画			令和6年度まで整備済		未整備内容		令和6年度までの進捗率 (%)	
主な工種(単位)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	数量	事業費 (百万円)	事業量ベース	事業費ベース
測量、設計(式)	1	35	1	35	0	0	100.0%	100.0%
用地補償(式)	1	10	1	10	0	0	100.0%	100.0%
管理用道路(式)	1	38	1	38	0	0	100.0%	100.0%
堰堤工(基)	1	137	0	0	1	137	0.0%	0.0%
合計	4	220	3	83	1	137		37.7%

残事業内容および今後の整備見込

- ・用地取得が終わり、今後順次工事を進め、事業進捗を図る見込みである。
- ・事業費について、地質調査の結果、地盤改良工を追加したことにより増額。

自己評価内容

評価結果

- ・公図混乱地域であり、土地所有者の特定に時間を要した。
- ・現在は順調に進んでおり、今後の事業実施に向けて特に支障はなく、事業の継続が必要。

事業継続が妥当

4. 今後のコスト縮減や代替案立案等の可能性(工法、計画の見直し等含む)

自己評価内容

評価結果

堰堤工形式の決定にあたり、複数工法のライフサイクルコストを検討し、経済的に最も有利な「重力式コンクリート堰堤」を採用している。
(約3百万円のコスト縮減)

事業継続が妥当

その他の視点

5. 関係機関との調整状況、他事業との関連など

当区域は土砂災害警戒区域となっており、高岡市の重点事業として早期完成の要望を受けている。

6. 事業の緊急性(適時性)および事業を見直した場合に想定される影響

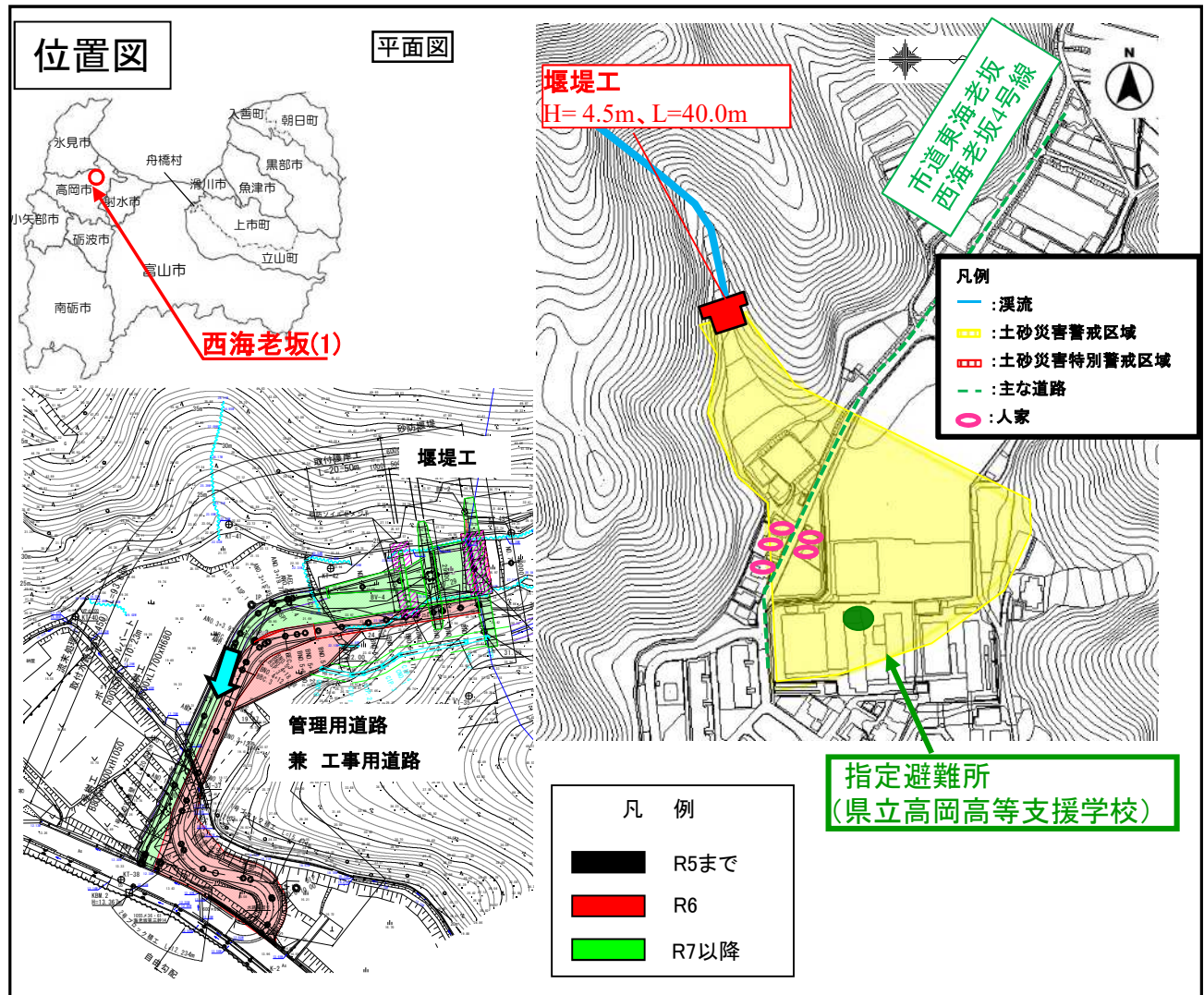
近年、豪雨災害が激甚化・頻発化しており、事業を早期に完成させ下流に立地している人家や道路等を保全する必要がある。

自己評価内容の総括

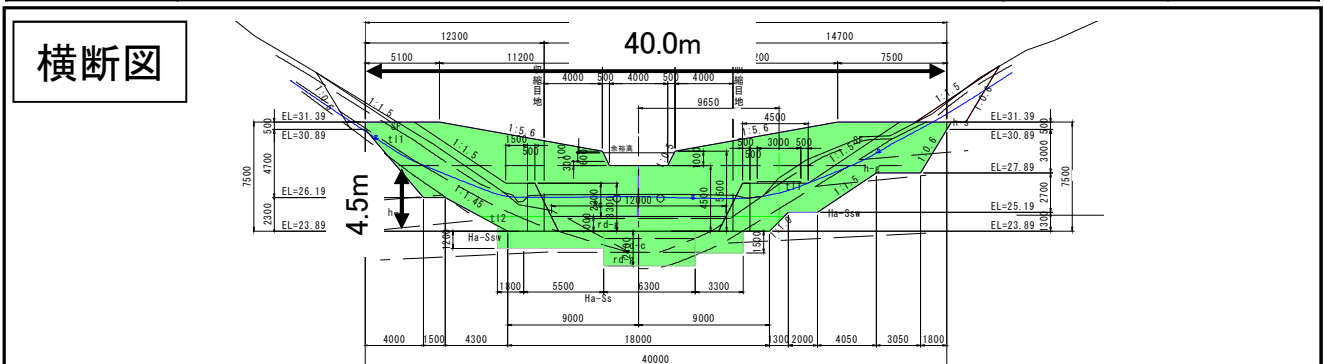
対応方針(案)	対応方針(案)の説明
継続	・土砂災害から住民の生命、財産を守るため、当事業の実施が必要である。 ・費用便益比は11.1となっており、十分な投資効果が見込まれる。 ・市や地元地区は協力的であり、今後は進捗していくと考えている。 ・高岡市からの重点事業要望箇所である。 以上のことから、事業継続が必要である。

様式3-1

17 砂防総合交付金事業(砂防)小矢部川水系西海老坂(1) (高岡市西海老坂)



主な工程 (全体事業量)	砂防堰堤工 1基	R6までの進捗率	
		事業量 ベース	事業費 ベース
測量・設計		100%	100%
用地補償		100%	100%
管理用道路		100%	100%
堰堤工 (高さ4.5m)		0%	0%
全 体		—	37.7%



整備前の状況

①全景



②保全対象(人家、市道)



③保全対象(人家、県立高岡高等支援学校)



④保全対象(県立高岡高等支援学校)



⑤溪流荒廃状況

